

再生可能エネルギーによる地域づくり 高齢者雇用による生きがい創出と地元へ利益還元

東日本大震災と原発事故により被災した土湯温泉町の復興・再生を担う事業主体として2012年10月、地元温泉組合と観光協会の出資を受けて設立された地域まちづくり会社。社訓として「創意・合意・決意」を掲げ、温泉街の復興・再生と賑わいの創出を目指し奮闘を続けている。特に地域資源を活用した再生可能エネルギー事業と温泉熱のカスケード利用による養殖事業への取り組みは全国的にも事例が少なく、先進的な取り組みとして注目され、地域の活性化に大きく貢献を果たしている。

- | | | | |
|---------|---|-------|---------|
| ●所在地 | 福島県福島市土湯温泉町字下ノ町17 | ●設立 | 2012年 |
| ●電話/FAX | 024-594-5037/024-573-1857 | ●資本金 | 2,000万円 |
| ●URL | http://www.genkiuptcy.jp/ | ●従業員数 | 21人 |
| ●代表者 | 代表取締役社長 加藤 勝一 | | |



需要獲得

サービス

地域資源を活用した再生可能エネルギー事業

バイナリー地熱発電所は約130℃と高温な既存源泉と豊富な湧水を利用し、発電後の源泉は温泉街に供給され旅館等で利用されている。小水力発電所は、防災用に設置された砂防堰堤の落差と水量を利用している。これらは福島市の「次世代エネルギーパーク」にも認定され、市内外の方々に学習機会を提供することで、再エネの特徴や有効性とともエネルギー問題への理解促進に寄与している。今後は養殖エビの「釣堀」や準備中の「地域限定提供」など含め継続的に地域経済の活性化に寄与していく。



土湯温泉16号源泉バイナリー発電所

温泉熱のカスケード利用によるエビ養殖事業

バイナリー発電後の熱水を熱交換して27℃の温水を「安定的に確保」できたことで、化石燃料や電気を使わない省エネ・低コストで効率的な養殖施設を完成させた。東南アジア原産の「オニテナガエビ(会社の商標として『つつゆ湯愛(ゆめ)エビ』)」の完全養殖(産卵～孵化～育成)を実施中である。温泉街に「エビ釣堀」を開設し賑わいの拠点とし、今後は、高級食材として地域限定で提供する準備を進め、ここでしか味わえないプレミアムな「地域ブランドエビ」を目指している。



つつゆ湯愛エビ

高齢者雇用による生きがい創出と地元への利益還元

災害により廃業を余儀なくした温泉旅館や空き店舗、住宅などの再利用に向けた事業展開を積極的に進めている。特に行政と連携を図り、「都市再生整備計画事業」で生まれ変わった「まちおこしセンター湯楽座」や公衆浴場「中之湯」の運営業務を受託し、活性化の拠点づくりに努めている。さらには、名産品として「つつゆ湯愛エビ」の商品化や「ふくしまフルーツ盆」地(ぼんち)酒特区」による「どぶろく」や「果実酒」の醸造と販売を計画、さらなる交流人口の拡大と地域活性化を目指している。



土湯温泉全景